

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 45

Shelly Manne【シェリー・マン】

～ウエスト・コースト・ジャズを代表する名ドラマー～



Photo from "The Navy Swings!" / Shelly Manne (Studio West : #109 CD)

Profile

1920年6月11日、米国ニューヨーク州ニューヨーク生まれ。本名は Sheldon "Shelly" Manne。父親と叔父もドラマーで、幼い頃に聴いたジョー・ジョーンズやデイヴ・タフのスイング・ドラムに感銘を受ける。最初はアルト・サクスを吹いていたが、父親の同僚だったピリー・グラッドストーンにドラムを学び、18歳の頃にドラマーに転身。40年にボビー・バーンのビッグバンドでプロ活動を始める。その後、ジョン・マーサラのオーケストラでの活躍によって名を知られるようになり、コールマン・ホーキンス、ドン・バイアス等のレコーディングに参加する他、デューク・エリントン、ジョニー・ホッジス等と共演。46年にスタン・ケントン楽団、49年にウディ・ハーマン楽団に参加し、ビッグ・バンド・ドラマーとしても名声を得る。48年から49年にかけて“Jazz At The Philharmonic”にも参加。52年頃から西海岸に移り、ロサンゼルスを拠点に活動。53年ハワード・ラムゼイ・オールスターズに参加。54年ショーティー・ロジャースと組んでウエスト・コースト・ジャズの立役者として活躍。ハリウッド映画やTV番組の録音にも多数参加。独立後は自己のグループを率いて活動する他、サイドマンとしても、アート・ペッパー、ビル・エヴァンス、ソニー・ロリンズ、エラ・フィッツジェラルド等、数々の作品に参加。本誌由来のベースマン、リロイ・ヴィネガーとも数多く共演を重ねた。60年にはロスアンゼルスに自身のジャズ・クラブ「シェリーズ・マン・ホール」を開店。70年代は“L.A.4”の初代ドラマーとして活躍。80年代に入ってもレコーディングに参加する等、晩年まで活躍。1984年9月26日、心臓発作により米国カリフォルニア州ロサンゼルス市の病院にて死去。享年64歳。

SM's Great Albums

自身のリーダー・バンドで数々の名盤・名演を残しているシェリー・マンだが、機会があれば、サイドマンとして渋いドラムを聴かせるマンの参加アルバムも聴いて欲しい。

ウエスト・コーストを代表する名手が一堂に会した豪華セッション



**ザ・ウエスト・コースト・サウンド
シェリー・マン&ヒズ・メン**
(ユニバーサルミュージック: UCCO-9585)

シェリー・マン (ds)、アート・ペッパー、バド・シャンク、ジョー・マイニ (as)、ポップ・クーパー、ビル・ホルマン (ts)、他

1. グラスホッパー
2. ラ・ムクーラ
3. サマー・ナイト
4. アフロデリア
5. あなたと夜と音楽と
6. ガゼル
7. スウィーツ (他、全 12 曲)

本誌由来のベースマンも参加したジャズ史に輝く大ベストセラー作品

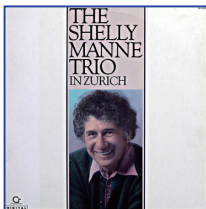


**マイ・フェア・レディ
シェリー・マン&ヒズ・フレンズ**
(ユニバーサルミュージック: UCCU-99104)

シェリー・マン (ds)、アンドレ・ブレヴィン (p)、リロイ・ヴィネガー (b)

1. 教会に間に合うように行ってくれ
2. きみ住む街で
3. アイヴ・グロウン・アカスタムド・トゥ・ハー・フェイス
4. そうなったら素敵 (他、全 8 曲)

シェリー・マンのラスト・ライブの音源を収めた遺作アルバム



**ザ・シェリー・マン・トリオ・イン・チューリッヒ
ザ・シェリー・マン・トリオ**
(Contemporary: C-14018) [Import LP]

シェリー・マン (ds)、フランク・コレット (p)、モンティ・パドウィッツ (b)

- [Side-1] 1. ソーラー 2. ラ・ヴァルス 3. マイ・フーリッシュ・ハート 4. グッド・ベイト
- [Side-2] 5. オール・オブ・ユー (他、全 8 曲)

アート・ペッパー、バド・シャンク、マーティ・ペイチ等、1950年代当時のウエスト・コースト・ジャズのスター・プレイヤー一達総勢 14 名による 3 種類の異なるセッションを収録。タイトル通り、「これぞ西海岸ジャズ」と言わしめる気合も感じさせ、クールで軽快でスインギーなウエスト・コースト・サウンドが心地良い。シェリー・マン以外にポップ・エネヴォルゼンとジミー・ジュフリーが全曲参加している。録音は 1953 & 1955 年。

アンドレ・ブレヴィン (p) と本誌由来のベースマン、リロイ・ヴィネガーとのトリオで、名作ミュージカル『マイ・フェア・レディ』の音楽を綴り、2 年間もヒットチャートにランキングされる大ヒットを記録。「きみ住む街で」「一晩中踊れたら」等、小気味良いスイング感も最高。コンテンポラリー社創業以来のベストセラーとして、商業的にも大成功を収め、ミュージカル楽曲のジャズ作品化の先駆けにもなったアルバム。1956 年録音。

シェリー・マンが亡くなる約半年前の 1984 年 3 月にスイス・チューリッヒの「ウィダー・バー」でライブ・レコーディングされ、その死から 2 年後の 1986 年に発表された遺作アルバム。フランク・コレットとモンティ・パドウィッツとのトリオで 8 曲を収録。「ソング・フロム・ムーラン・ルージュ (ホエア・イズ・ユア・ハート)」～「ラ・ヴィ・アン・ローズ」を披露した「フレンチ・メドレー」にアルバムのラストを飾った「ナードイス」等も秀逸。

ウエスト・コースト・ジャズの建国者

ウエスト・コースト・ジャズの名ドラマーとして活躍しただけでなく、ウエスト・コースト・ジャズのリーダー的存在として、“ウエスト・コースト・ジャズの建国者”とも称されたシェリー・マン。だが、意外にも生まれはイースト・コーストのニューヨーク州ニューヨーク。1952 年頃に西海岸に移住後、60 年にハリウッドに開店した自身の名を冠したジャズ・クラブ「シェリーズ・マン・ホール」から数々の名演、名作を生み出した功績は大きい。「シェリーズ・マン・ホール」は名門ジャズ・クラブとして 72 年まで営業。クラブ経営者としての手腕も発揮した。

来日、そして、酔いどれ詩人との共演

1964 年 3 月に『四大ドラマーの競演 (DRUM BATTLE)』と題するコンサートで、マックス・ローチ、フリー・ジョー・ジョーンズ、ロイ・ヘインズ (ds)、リロイ・ヴィネガー (b)、ハワード・マギー (tp)、チャーリー・マリアーノ (as)、秋吉敏子 (p) 等と来日を果たしたシェリー・マン。ジャズ以外では“酔いどれ詩人”トム・ウエイツのアルバム『スモール・チェンジ』(1976 年)、『異国の出来事』(1977 年)に参加し、いぶし銀のドラムを聴かせてくれている。尚、トム・ウエイツはティ・エドワーズの『ミシシッピ・ラッド』でリロイ・ヴィネガーとも共演した。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.18

~ St. Louis Blues 【セントルイス・ブルース】 ~

この曲は 1914 年にウィリアム・クリストファー・ハンディ (W.C. ハンディ) が作詞・作曲した楽曲。ブルース進行で作曲され、ベッシー・スミスとレイ・アームストロングの共演録音 (1933 年)、レイ・アームストロングのオーケストラ録音 (2008 年) が共にグラミー賞の殿堂入りを果たしている。現在までジャズ・スタンダードとして親しまれ、数多くのアーティストに愛され続けている。ハンディは“ブルースの父”と称され、メンフィスに銅像がある。

★この名曲が聴けるお薦めのアルバム

ベッシー・スミス『セントルイス・ブルース』
レイ・アームストロング『プレイズ・W.C. ハンディ』
ナット・キング・コール『セントルイス・ブルース』
レッド・ガーランド『レッド・イン・ブルース・ヴィル』
八代亜紀『哀歌 -aiuta-』